

自然科学分野で中国初のノーベル賞受賞 により、注目高まる中医学(漢方)

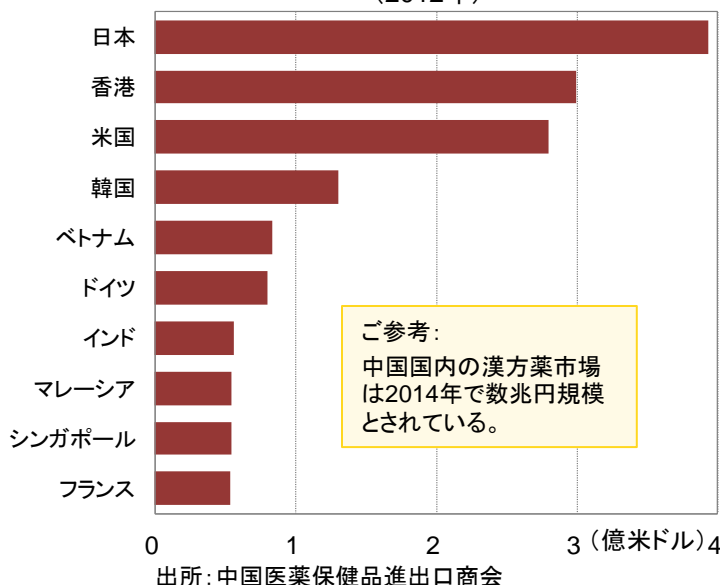
今年のノーベル生理学・医学賞は、「寄生虫病の新たな治療に関する発見」で北里大学の大村智特別栄誉教授と米ドリュー大学のウィリアム・キャンベル名誉研究フェローが同時受賞となったほか、「マラリアの治療法に関する発見」で中国中医科学院の屠呦呦(ト・ユウユウ)終身研究員兼主席研究員が受賞しました。中国の伝統医学である中医学(漢方)を専門とする屠氏は、植物や動物、鉱物などに含まれる様々な漢方薬を試し、マラリア治療に効果があり、後にアーテミスニンと呼ばれる成分を薬草から抽出することに成功しました。同氏のノーベル賞受賞は、自然科学分野では中国国籍者で初、女性科学者としてアジア初の快挙です。

習近平政権は、中国を起点に、中央・東南アジアなどを経由して欧州・アフリカまでを陸・海路で結び、かつてのシルクロード沿いに巨大経済圏の確立を目指す「一帯一路(海と陸のシルクロード)」構想を掲げており、同構想の下で漢方のグローバル化や輸出拡大を志向しています。また近年は、欧米でも東洋伝統医学が注目を集め、中国から漢方薬が輸入されているほか、世界的な大手医薬品メーカーによる、中国医薬品メーカーとの合併事業や中国の研究機関との提携が相次いでいます。こうした動きは、漢方の国際標準化や近代化などにつながり、ひいては、漢方への理解や漢方薬の利用が海外でより一層進むことになると期待されます。

漢方では、病気にかかってからではなく、病気に向かいつつある不調時、いわゆる「未病」と呼ばれる段階での治療が大切にされています。少子高齢化や医療費高騰、慢性疾患患者の増加といった問題を抱える日本では未病への関心が強く、漢方薬への需要が高まっています。日本での漢方薬の市場規模(生産額ベース)は2013年時点で医薬品全体の2%強ながら、同年までの10年間で約44%伸びており、5%台半ばにとどまる医薬品全体の伸びを凌駕しています。こうした日本の事例を踏まえると、屠氏のノーベル賞受賞などを機に、漢方への理解や未病という概念がより一層広がれば、漢方薬への需要も世界的に広がると考えられます。

中国の漢方薬の輸出先トップ10

(2012年)

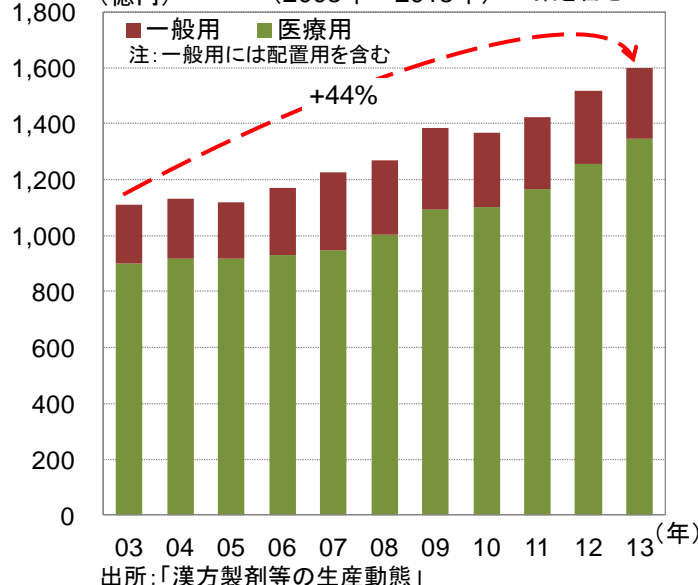


ご参考:

中国国内の漢方薬市場は2014年で数兆円規模とされている。

日本での漢方薬*の生産額の推移

(億円) (2003年~2013年)*生薬を含む



※上記は過去のものおよび推計であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。